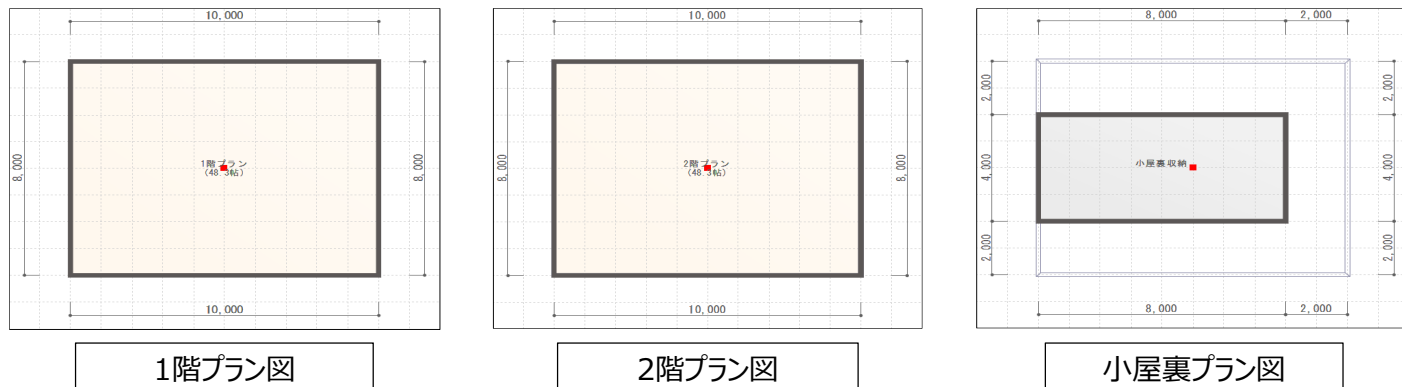


I. 小屋裏収納があるプラン

2階建て+小屋裏収納があることを想定し、下記のような簡易的なプランにて解説を行います。



下屋裏収納 = 最上階上部以外に設ける小屋裏収納（例：2階建ての下屋の小屋裏収納）

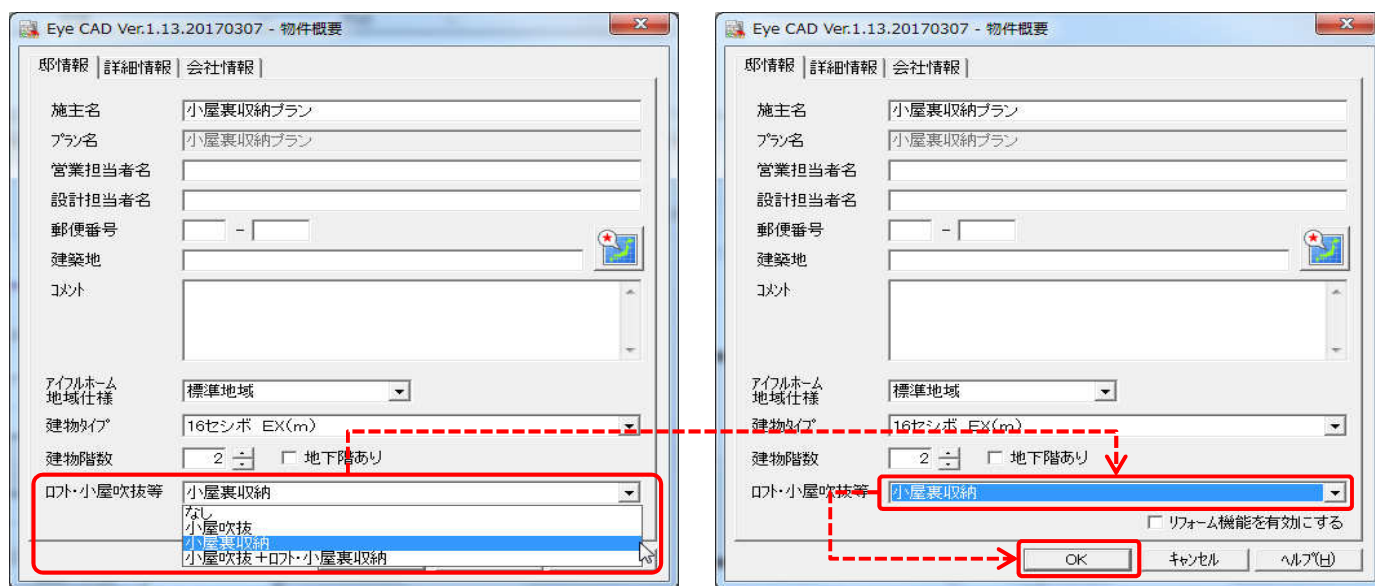
I-1. 物件概要

小屋裏収納を入力する場合は、物件概要の設定を行う必要があります。

ロフト・小屋吹抜等の項目を『小屋裏収納』に設定します。



※物件起動時に設定を行わなかった場合は、メインメニューから物件概要をクリックします



これにより、「小屋裏階」にプランを入力可能になります。

（下屋裏収納の場合は、ロフト・小屋吹抜等の項目を『なし』に設定します。）

I -2. プラン図

プラン図を起動し、1階プラン・2階プランを入力します。

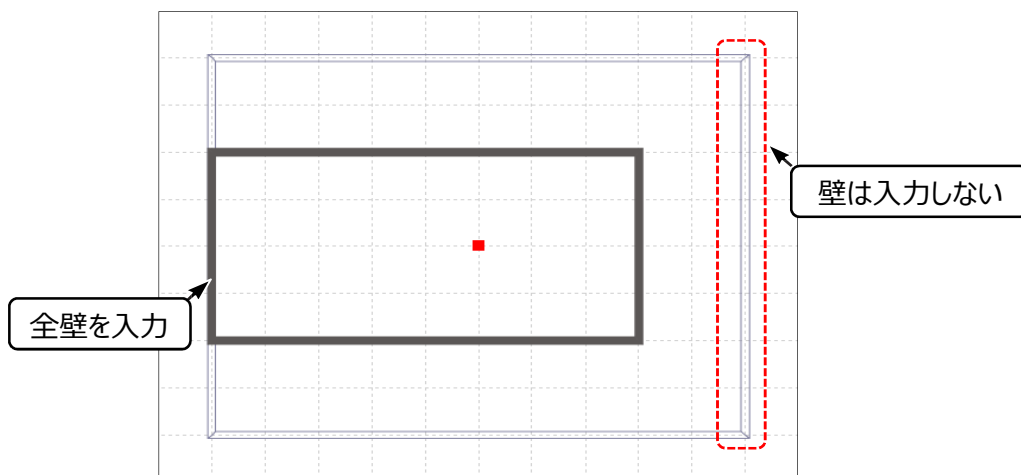
2階プラン図から ▲ をクリックすることで、小屋裏プラン図に遷移できます。



■ 壁入力

通常のプランと同様、全壁にて小屋裏収納の周囲を囲います。

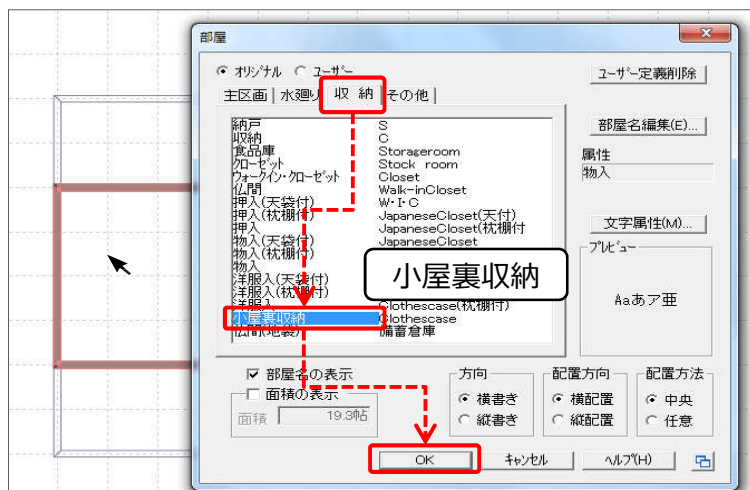
※ 小屋裏収納と関係のない外周壁は、入力する必要はありません。



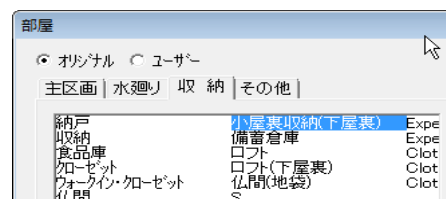
■ 部屋入力

「収納」タブ内の『小屋裏収納』を入力します。

※ 小屋裏収納は、天井高の初期値が1400に設定されています。



補足-下屋裏収納の場合は、部屋名「小屋裏収納（下屋裏）」を選択してください。



I-3. 屋根伏図

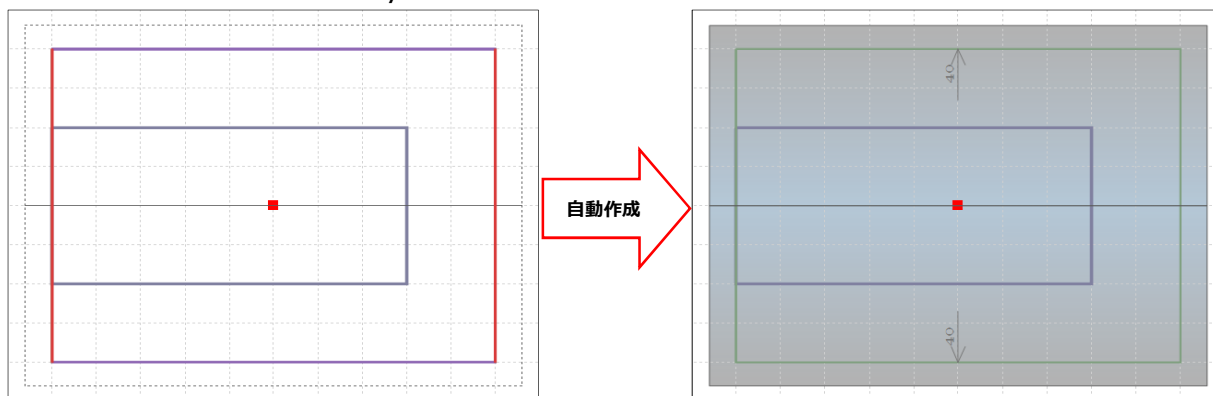
屋根伏図を起動し、2階+小屋裏屋根伏図に遷移します。



■ 屋根面入力

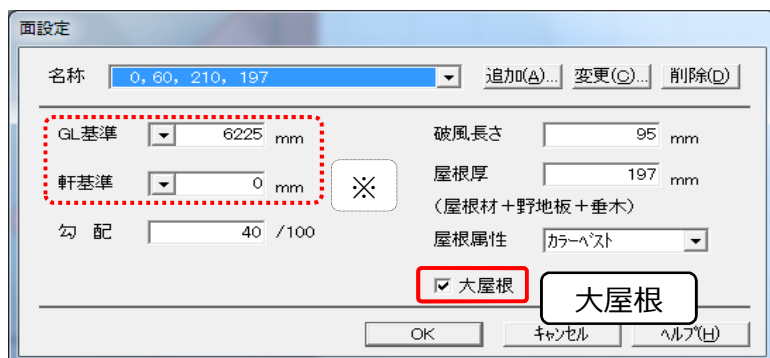
地回り範囲線を用い、切妻屋根を自動作成します。

※ 屋根面入力の詳細は、EyeCADマニュアル（補足屋根入力編）をご参照ください。

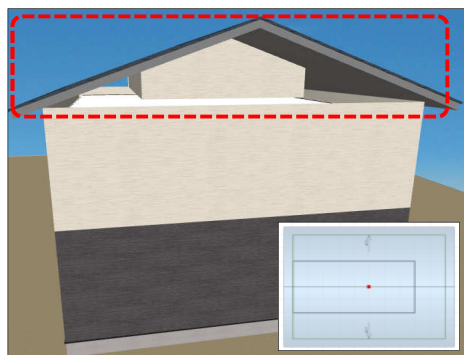


自動作成された屋根面の面設定には、「大屋根」のチェックが入った状態になっています。

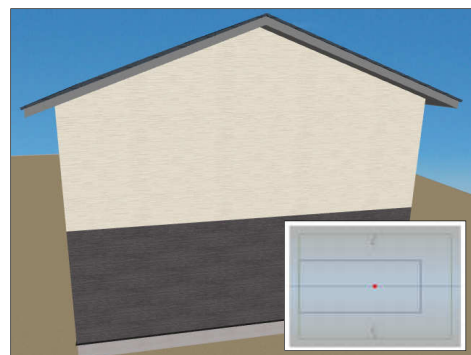
「大屋根」チェックが入っていると、不足部分の外壁が自動で補われます。



※2階+小屋裏屋根伏図の軒高は、2階の軒高と同じ値になります。従って母屋上げ・下げを行わない場合は、軒基準の値を変更する必要はありません



大屋根チェックなし



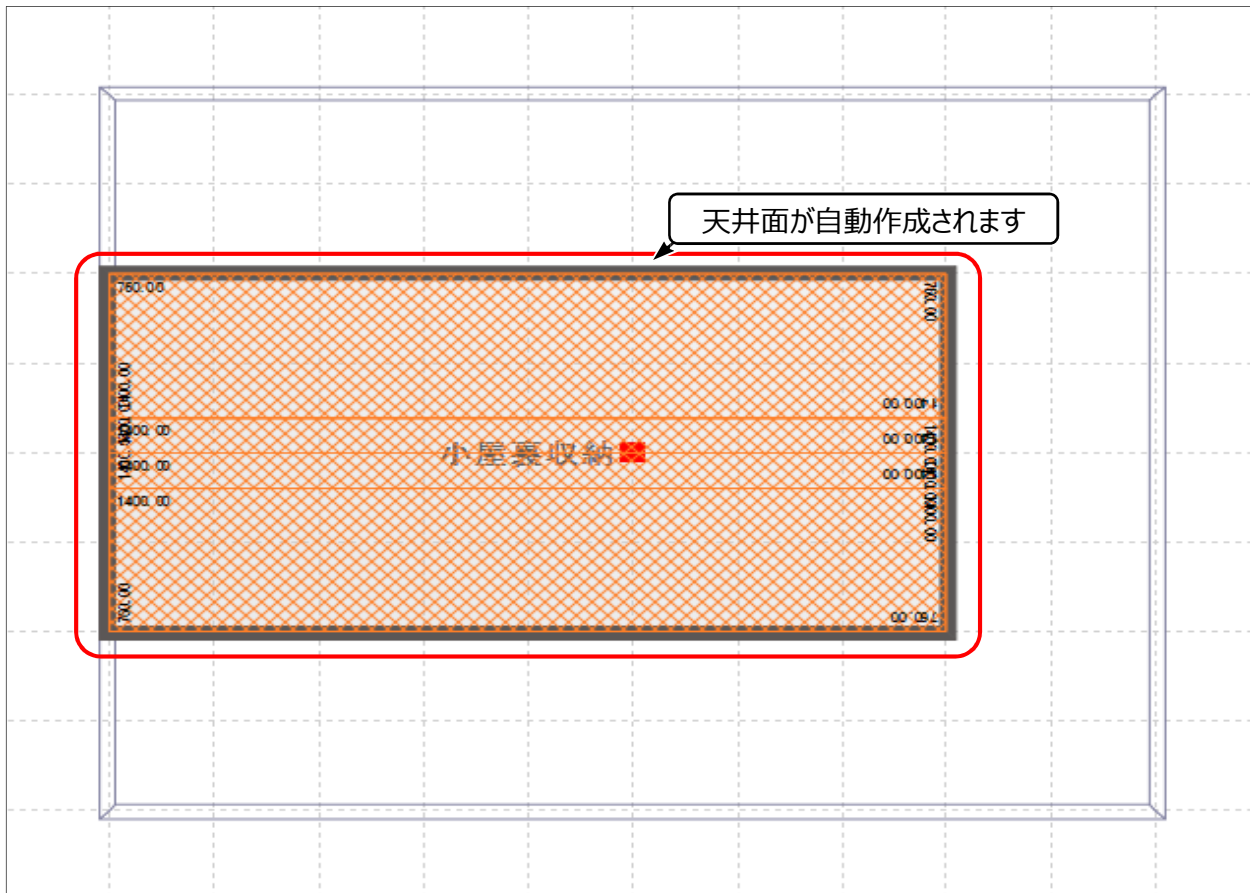
大屋根チェックあり

I -4. 天井面の設定

プラン図にて、天井面の設定を行います。

屋根面の入力後にプラン図を開き直すと、小屋裏プラン図に天井面が自動配置されています。

※ 天井面の高さは、屋根の高さ・勾配により自動的に決定されます



注意！ 天井面について

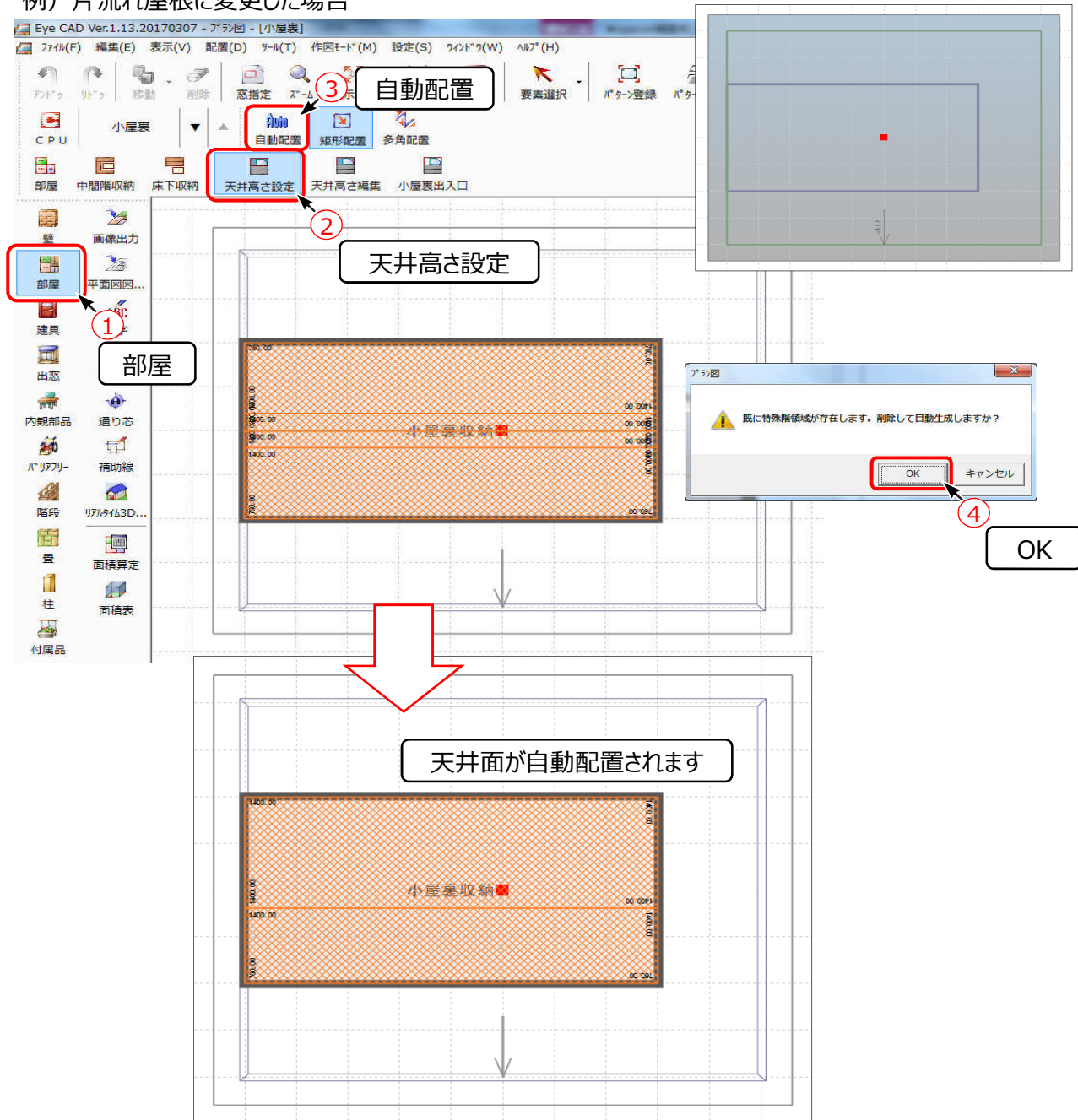
ここで自動配置される天井面は、外皮性能計算に関する「断熱区画」を表すものです。

パース表現としての天井面とは連動しませんのでご注意ください。

■ 天井面自動配置

屋根形状が変更された場合には、天井面を再度自動配置します。

例) 片流れ屋根に変更した場合



参照 天井面の編集

天井面を編集する方法は、EyeCADマニュアル（シミュレーション編）－（補足）外皮性能計算をご参照ください。



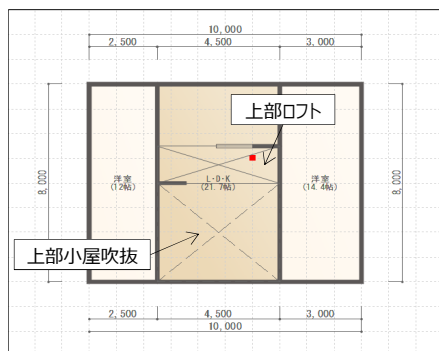
屋根形状と自動配置される天井形状

	寄棟	切妻	片流れ
屋根形状			
天井形状			
断熱区画形状			

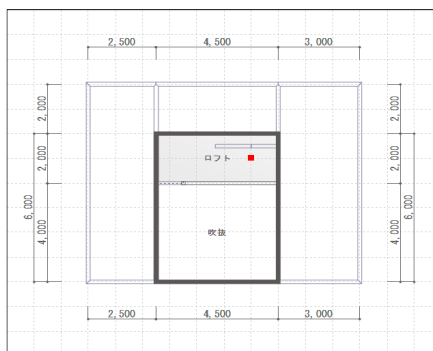
小屋裏収納があるプランの入力は以上です

Ⅱ. ロフト・小屋吹抜があるプラン

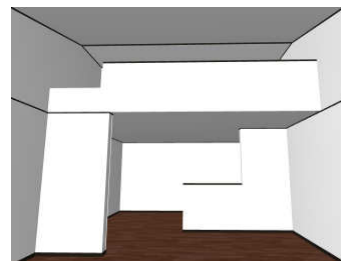
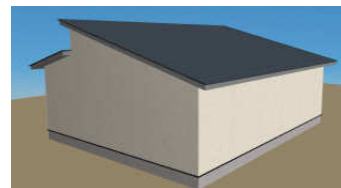
1階建て+ロフト・小屋吹抜があることを想定し、下記のような簡易的なプランにて解説を行います。



1階プラン図



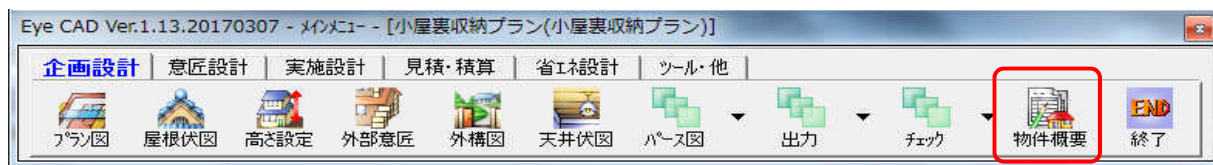
小屋裏プラン図



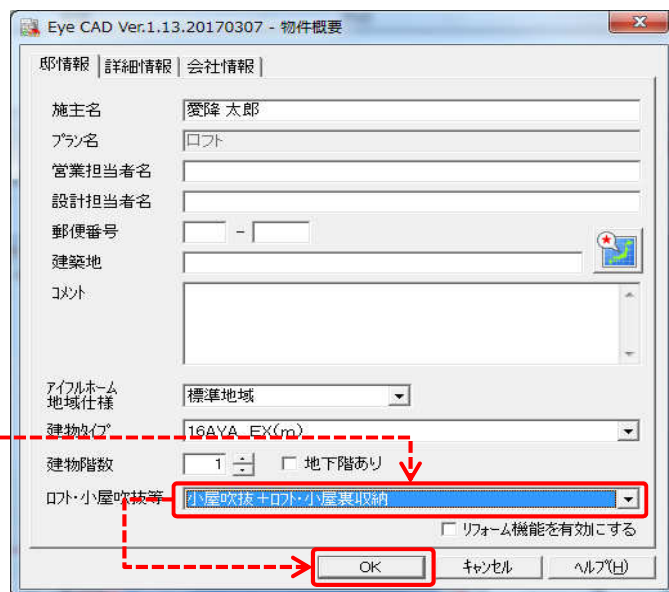
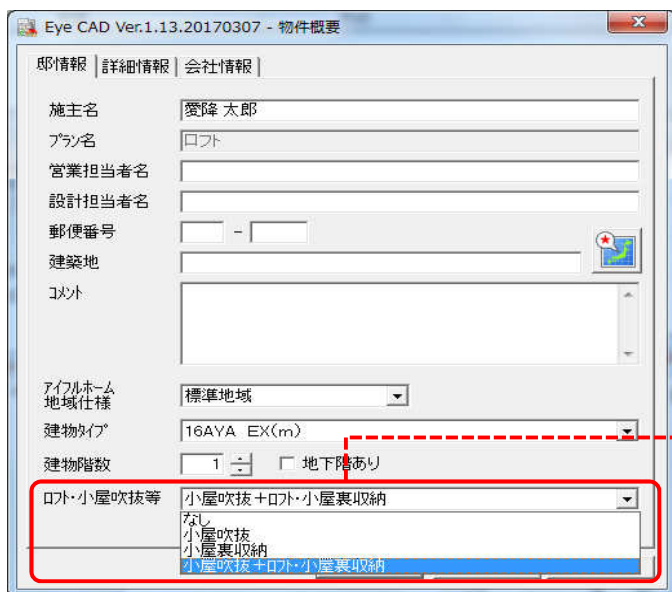
Ⅱ-1. 物件概要

小屋裏収納を入力する場合は、物件概要の設定を行う必要があります。

ロフト・小屋吹抜等の項目を『小屋吹抜+ロフト・小屋裏収納』に設定します。



※物件起動時に設定を行わなかった場合は、メインメニューから物件概要をクリックします



これにより、「小屋裏階」にプランを入力可能になります。

II-2. プラン図

プラン図を起動し、1階プランを入力します。

1階プラン図から ▲ をクリックすることで、小屋裏プラン図に遷移できます。

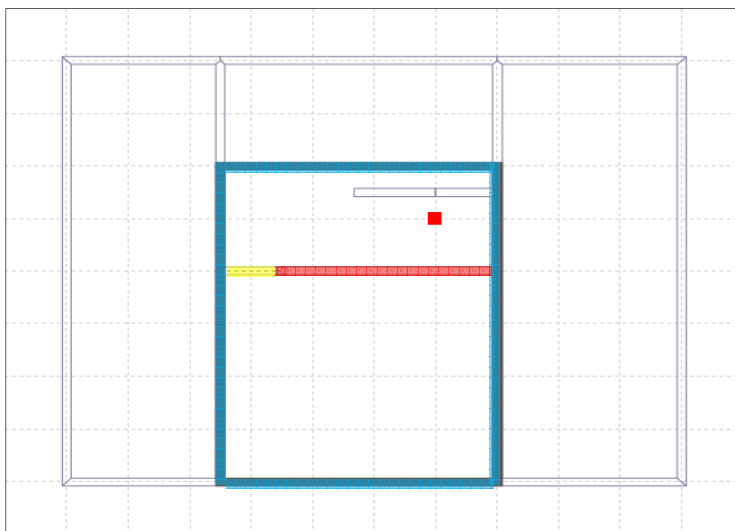


■ 壁入力

全壁にてロフト部分の外周及び小屋吹抜部分の外周を囲います。

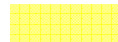
ロフトと小屋吹抜の境界部には、必要に応じて腰壁・全開口を入力します。

※ ロフト・小屋吹抜と関係のない外周壁は、入力する必要はありません。



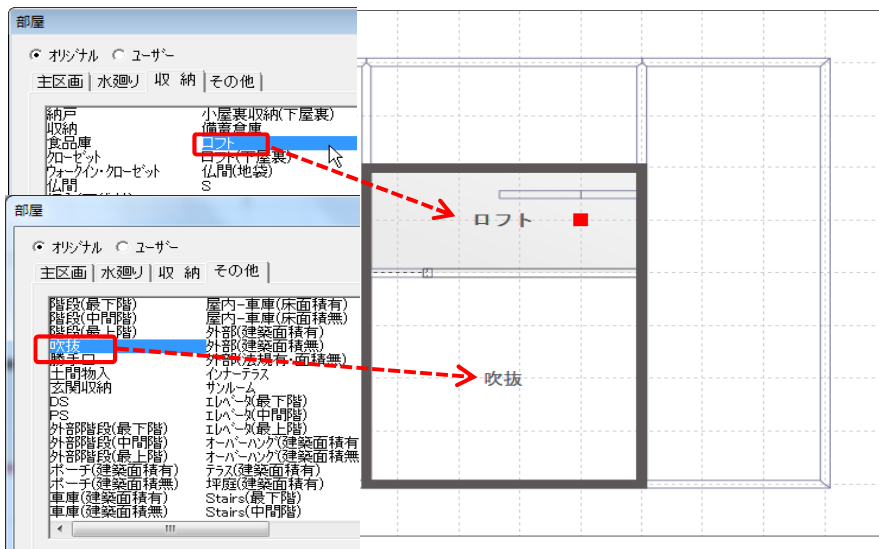
 : 全壁

 : 腰壁

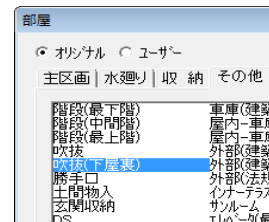
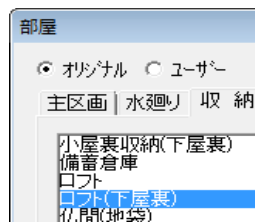
 : 全開口

■ 部屋入力

『ロフト』と『吹抜』を入力します。



補足-ロフト下屋裏収納・吹抜下屋裏収納の場合、
部屋名を「ロフト（下屋裏）」・「吹抜（下屋裏）」を選択してください。



II-3. 屋根伏図

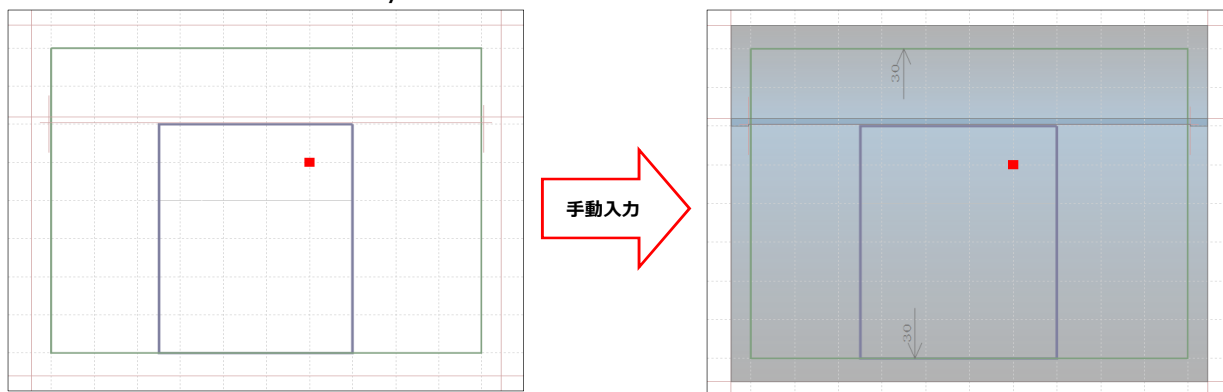
屋根伏図を起動し、1階+小屋裏屋根伏図に遷移します。



■ 屋根面入力

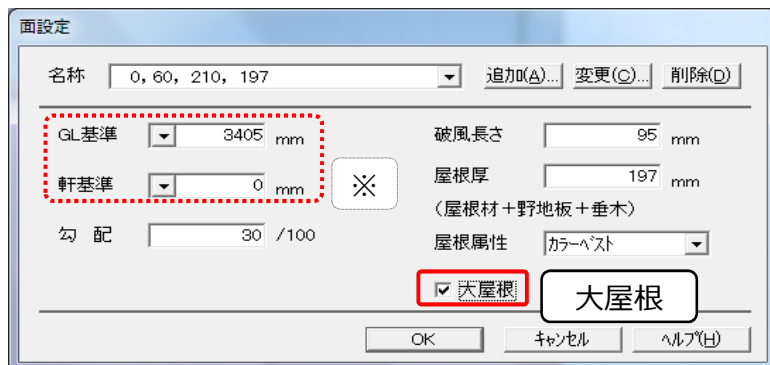
屋根面を作成し、段違い片流れ屋根を手動入力します。

※ 屋根面入力の詳細は、EyeCADマニュアル（補足：屋根伏図の入力）をご参照ください。

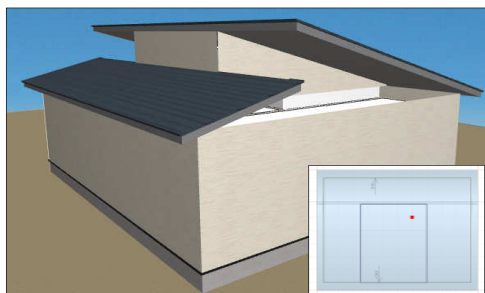


面設定には、「大屋根」のチェックが入った状態になっています。

「大屋根」チェックが入っていると、不足部分の外壁が自動で補われます。



※1階+小屋裏屋根伏図の軒高は、1階の軒高と同じ値になります。従って母屋上げ・下げを行わない場合は、軒基準の値を変更する必要はありません



大屋根チェックなし



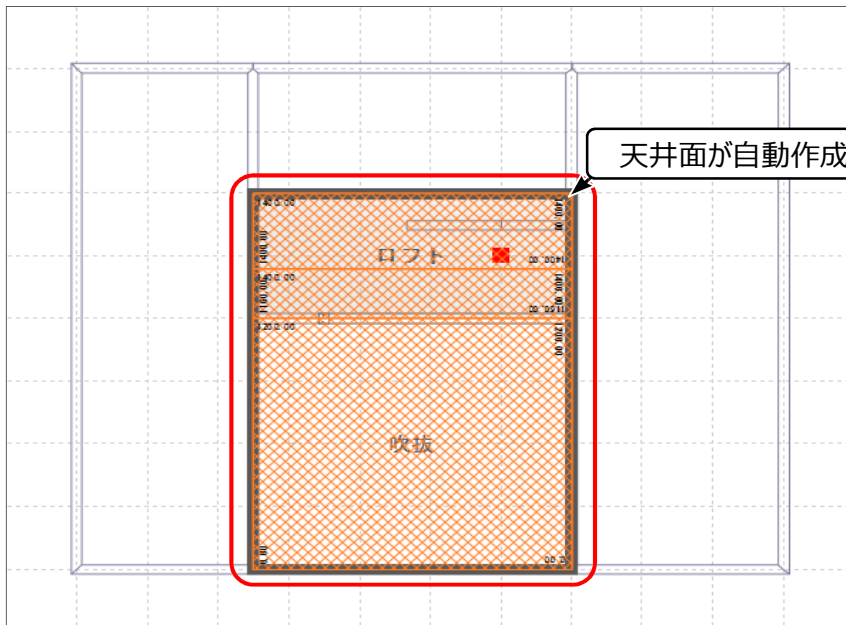
大屋根チェックあり

Ⅱ-4. 天井面の設定

プラン図にて、天井面の設定を行います。

屋根面の入力後にプラン図を開き直すと、小屋裏プラン図に天井面が自動配置されています。

※ 天井面の高さは、屋根の高さ・勾配により自動的に決定されます



※天井面の設定方法は、
I. 小屋裏収納のあるプラン及び、
EyeCADマニュアル(シミュレーション編) –
(補足)外皮性能計算
をご参照ください。

ロフト・小屋吹抜のあるプランの入力は以上です